

第2章 本市における南アルプスユネスコエコパークの構成要素



1. 南アルプスユネスコエコパーク（静岡市域）の概要

（1）静岡市の位置・地勢

1）位置

本市は、静岡県のほぼ中央に位置しており、南は駿河湾に面し、西は藤枝市、焼津市、島田市、川根本町に、東は富士市、富士宮市に接しています。

本市の北側はユネスコエコパークに登録された豊かな南アルプスの山岳地帯があり、さらに北は、山梨県と長野県に接しています。

市域面積は約 1,412km² であり、標高 3,000m 級の山々を抱える南アルプスから駿河湾の沿岸まで、広域な面積を有しており、全国で 5 番目に大きい面積を誇っています。



2）地勢

市域全体からみれば市街地が広がる平野部は駿河湾に面する南側のごく一部で、市域の多くは北側に広がる南アルプスの急峻な山地となっています。

南に位置する駿河湾の最大深度は約 2,500m で、北に位置する南アルプスは 3,000m の山々であることから、高低差約 5,500m という地形を有する都市は世界でも極めて珍しいものです。

さらに、最近 70 年間の測地測量データでは、南アルプスは年間約 4mm 以上の速度で隆起しており、この速さは日本では最速、世界でもトップレベルであると言われています。

またその作用に伴って、山地が削られていく速度も世界有数であり、南アルプスは温暖多雨地域の山岳地帯であるため、流水による侵食・運搬によって地形が形成されています。

図7 本市の位置・地勢

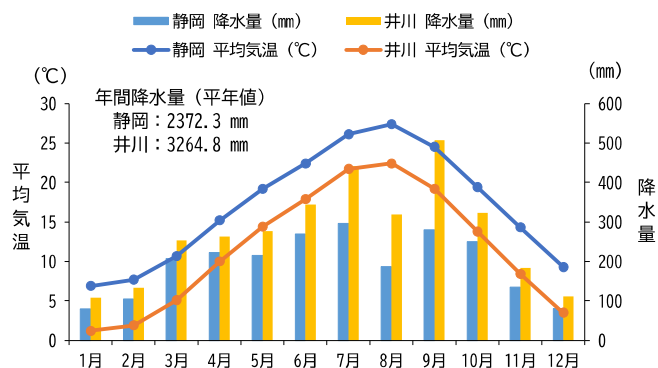
(2) 気象

南アルプスは静岡市街地よりも気温が低く、降水量が多いという特徴を持っています。

気温は、一般的に標高が 100m 高くなるごとに約 0.6℃下がると言われています。静岡市街地の標高は約 30m、井川地域の標高は約 700m であるため、約 4℃の気温差があります。3,000m の山頂では市街地より約 18℃気温が低くなります。

南アルプスの降水量が多い理由は、太平洋岸に近いところに山が迫っており南の風によって運ばれた水蒸気が山にぶつかることによって雨雲が湧きやすいためです。

激しい雨により、山は侵食され崩壊地形（赤崩、ボッチ薙）や V 字谷*などの地形を創り出し、急峻な山岳地形を呈しています。



資料) 気象庁 HP (1991~2020 平年値)

図 8 静岡気象台と井川観測所の気温と降水量

▲▲ コラム 赤崩 ▲▲

赤崩は南アルプスの大崩壊地の一つで、東俣林道から崩壊地が望めます。

崩壊地は、地盤の急速な隆起により、山自体の重みを地盤が支えきれない状態のところを、大雨・雪どけ・地震が引き金になって大規模崩壊（深層崩壊）が発生した後の地形であり、現在も小規模な崩壊を繰り返しています。

南アルプスでは、赤崩以外にもボッチ薙などの大小多くの崩壊地がみられます。

南アルプスの地質は、四万十帯の白亜紀層である寸又川層群の砂岩泥岩互層*です。これらの岩石は赤色ではなく、灰色～黒色を呈しています。けれども赤崩と呼ばれている理由は、大雨の際、崩れた後に赤い水がでることから、「赤崩」と呼ばれているようです。実際の水は、赤色ではなく、赤みがかった茶色を呈しています。赤みがかった茶色は、灰色～黒色の砂岩泥岩互層*が風化により、地表付近の砂岩や泥岩が土砂化することにより生じます。

ですから、実は流域に崩壊地のある河川では、大雨後に赤褐色の泥水が流れますのでどこにでも赤崩はあるということにもなります。



(3) 人口

南アルプスユネスコエコパークの登録地域内の井川地域においては、顕著な人口減少と高齢化が進んでいます。

2013（平成 25）年度の人口は 602 人でしたが、2023（令和 5）年度には 382 人まで減少しており、約 4 割の人口が減少しています。

高齢化率（地域人口のうち 65 歳以上が占める割合）は年々上昇傾向にあり、2023（令和 5）年においては 62%であり、静岡市全体の高齢化率（31%）と比べると、2 倍上回っています。

人口の減少と高齢化率の上昇は、日本全国どこでも問題となっていますが、井川地域といった中山間地域においては、より深刻な問題となっています。

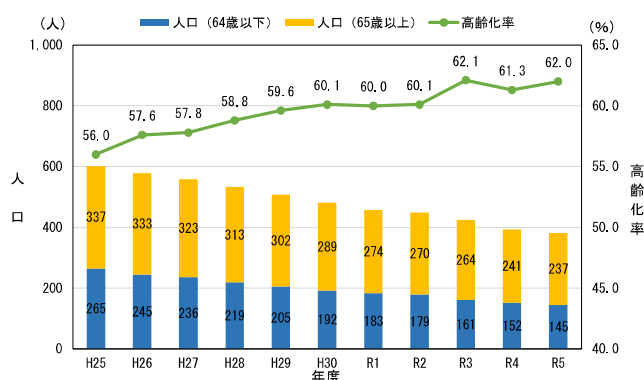


図 9 井川地域の人口と高齢化率の推移

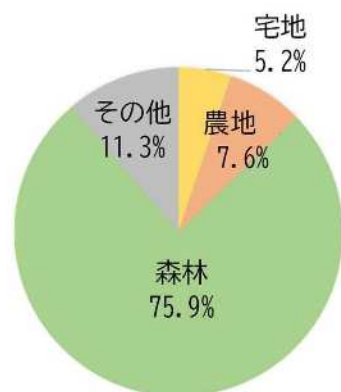
(4) 土地利用

静岡市の土地利用状況は全体の 76%が森林を占めており、豊かな森林の恩恵を感じられる都市ということがわかります。近年、森林や農地は減少傾向にあります。

表 4 2021（令和 3）年度の土地利用状況

	面積(ha)	割合
宅地	7,368	5.2%
農地	10,662	7.6%
森林	107,211	75.9%
その他	15,952	11.3%
市域面積	141,193	100%

資料)「静岡県の土地利用（令和 4 年版）」



資料)「静岡県の土地利用（令和 4 年版）」

図 10 2021（令和 3）年度の土地利用状況

(5) 産業

静岡市の2020（令和2）年における産業別就業者数は、第1次産業2.3%、第2次産業24.7%、第3次産業が73.1%であり、第3次産業が最も多く、商業都市という特徴を持っています。

一方、井川地域における職種別就業者数は、全体の21%が第1次産業である農林業に従事しており、市全域と特徴が大きく違うことがわかります。

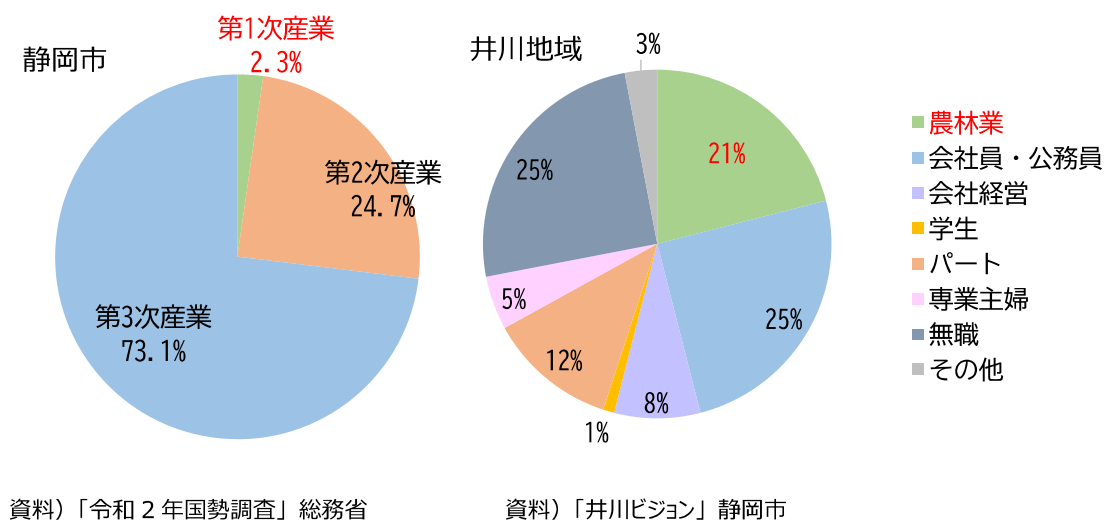


図 11 静岡市と井川地域の産業の違い

2. 本市に位置する構成要素

本市における南アルプスユネスコエコパークの構成要素を、3つの機能別に示します。

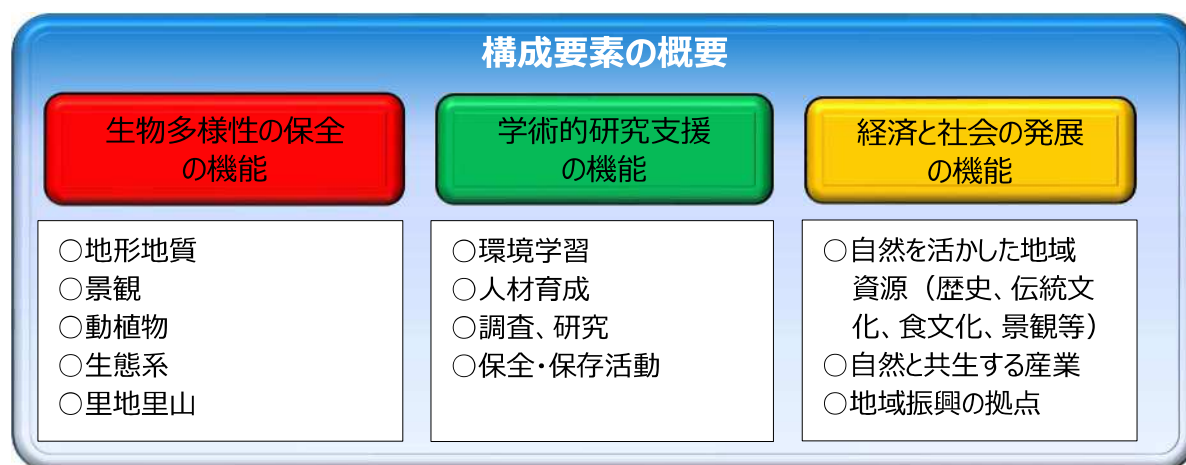


図 12 構成要素の概要

（1）生物多様性の保全の機能

1）多様な地形地質が織りなす景観

南アルプスは日本有数の山岳地帯で、本市は3,000m級の山岳を10座有しています。

北アルプスに比べて山体が大きく、稜線付近が比較的なだらかなことが特徴で、温暖多雨な気候と山体の急速な隆起によって深いV字谷*や崩壊地形*が発達しています。

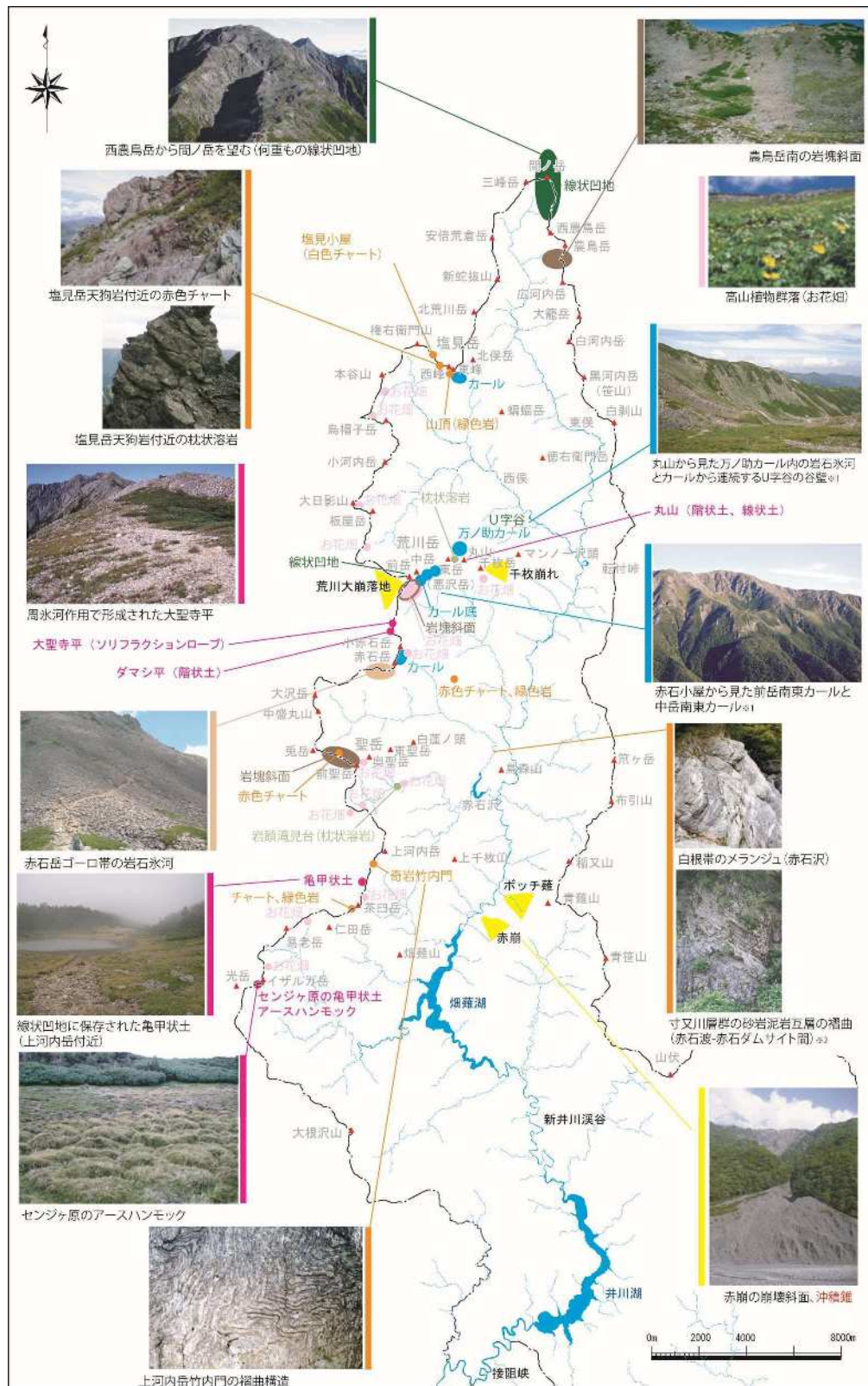
標高2,600m以上の高山帯には、日本最南端の氷河地形*が残されており、地中の水分が凍り、溶け、また凍る、という現象を繰り返すことで形成される周氷河地形*も見られます。また、地史を示す顕著な見本となる特徴的な地形地質が観察できる“ジオサイト”も存在します。

南アルプスは日本有数の多雨地帯であり、多量の雨が勾配の急な河川を流れるため、南アルプスを源流とする大井川は、日本を代表する急流です。また、駿河湾に向かって南方面へと流れる大井川は、北東から南西方面へと連続している砂岩や泥岩からなる固い地層に阻まれながら流れるため、ジグザグと蛇行して流れていきます。これを「穿入蛇行*^{せんにゆうだこう}」といい、特有の景観を生み出しています。

表5 構成要素（多様な地形地質が織りなす景観）

区分	構成要素	エリア
氷河地形*	●カール（けんこく）*、モレーン（堆石）*  間ノ岳、塩見岳、荒川三山、赤石岳など	核心地域
周氷河地形*	●がんかい岩塊（岩海）斜面*  間ノ岳・農鳥岳や赤石岳など ●岩石氷河*  荒川三山、赤石岳など ●ソリフラクションローブ*  丸山、大聖寺平 ●階状土*、線状土  ダマシ平、丸山 ●亀甲状土*・アースハンモック*  光岳からイザルガ岳間のセンジヶ原、上河内岳（上河内岳と茶臼岳の中間地点 ※長野県域）など	核心地域
深層崩壊	●せんじょうおうち線状凹地*  間ノ岳、荒川前岳、赤石岳、上河内岳、赤崩の上方、転付峠、山伏など	核心地域 移行地域
	●崩壊地形*  上千枚崩、赤崩、ポッチ薙	移行地域
河川地形	●じこくV字谷  赤石沢、西俣など	核心地域 移行地域
	●沖積錐*  赤薙、ポッチ薙、千枚崩れ下方など ●穿入蛇行*  大井川（接阻峡、新井川溪谷、二軒小屋）	移行地域
	●緑色岩*、枕状溶岩*  塩見岳、悪沢岳、聖岳登山道、茶臼岳 ●赤色チャート*、白色チャート*  塩見岳、悪沢岳、聖岳、上河内岳 ●メランジュ*  千枚岳、聖岳など ●チャート層のしゅうきよく褶曲*  上河内岳から茶臼岳間（竹内門） ●石灰岩のトア*（岩塔）  光岳（光岩）	核心地域
ジオサイト	●樺島周辺のジオサイト群（河川争奪*地形、線状凹地*、白根帯の赤色チャート*を含む海洋底岩石、メランジュ*および寸又川帯の砂岩泥岩互層*の褶曲構造等）  樺島周辺	移行地域

【凡例】 観察できる場所



写真：狩野謙一（静岡大学）※1

写真：『大井川上流部のジオツアーガイド 静岡市委託・南アルプス（静岡県側）
ジオツアーコース調査選定等業務報告書』※2

上記以外は『南アルプス学術総論』

2) 貴重な動植物の生息・生育地

①多様な生態系

登録地域は、麓から山頂まで2,500mにおよぶ標高差があり、暖帯から寒帯までの比較的明瞭な植生の垂直分布が見られます。標高に応じた多様な植生帯と独特な地形が、多種多様な動植物を育み、様々な生態系を形成しています。

動植物は、互いに「食べる－食べられる」の関係を持ち、複雑な食物連鎖を形成しています。

イヌワシやクマタカといった大型猛禽類、ツキノワグマ、ホンドキツネ、ホンドオコジョといった中・大型哺乳類などは、南アルプス広域を生活圏とし、様々な動物を食物としています。このような、食物連鎖の上位に存在する種の生息基盤は、南アルプスに育まれた様々な自然環境に依存しています。

また、南アルプスの麓には人々が生活し、林業や畑作等の人間活動により里地里山環境が維持されてきました。ヤマネやムササビなどの哺乳類、フクロウ、ヤマセミなどの鳥類、ニホントカゲ、シロマダラなどの爬虫類、アズマヒキガエル、モリアオガエルなどの両生類、アカザ、カジカ、アマゴなどの魚類、オオムラサキ、ミドリシジミ、オオイチモンジ、ヨツボシカミキリなどの昆虫類、クマガイソウなどの植物は、集落や二次林等の身近でよく見られる人間と共生してきた動植物ですが、近年は絶滅が危惧されています。

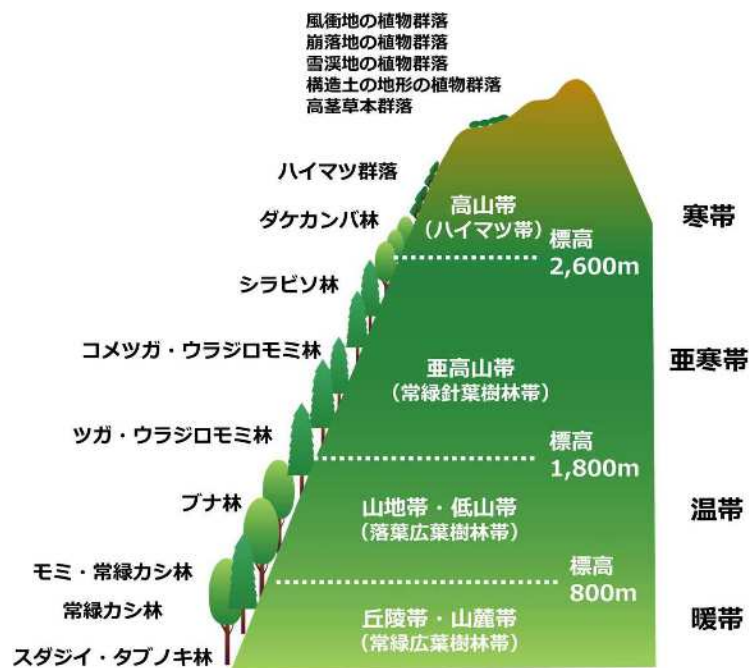


図14 南アルプスの垂直分布

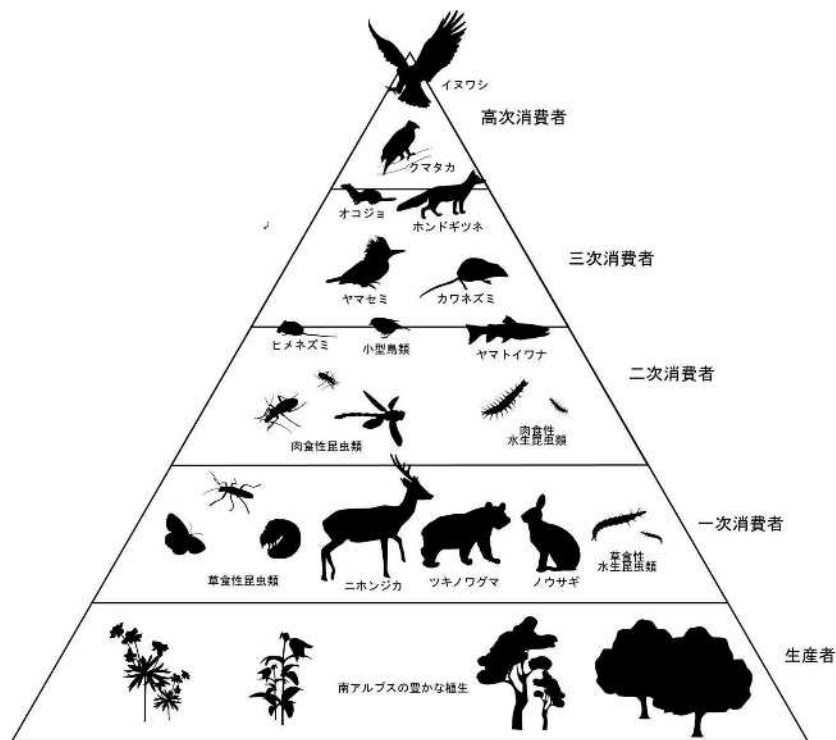


図 15 南アルプスの食物連鎖模式図

②南アルプスの生態系を特徴付ける注目種・群集

南アルプスの生態系を特徴付ける注目種や群集を、生態系の上位性、典型性、特殊性の3つの視点から抽出します。

上位性	生態系の上位に位置 ○生態系を形成する生物群集において栄養段階の上位に位置する種を対象とする。 ○該当する種は相対的に栄養段階の上位の種で、生態系の攪乱や環境変動などの影響を受けやすい種が対象となる。
典型性	生態系の特徴を表す ○対象地域の生態系の中で重要な機能的役割をもつ種・群集や、生物の多様性を特徴づける種・群集を対象とする。 ○該当するものは、生物間の相互作用や生態系の機能に重要な役割を担うような種・群集、生物群集の多様性を特徴づける種や生態遷移を特徴づける種などが対象となる。
特殊性	特殊な環境等を指標 ○小規模な湿地、洞窟、噴気口の周辺、石灰岩地域などの特殊な環境や、砂泥底海域に孤立した岩礁や貝殻礁などの対象地域において占有面積が比較的小規模で周囲にはみられない環境に注目し、そこに生息する種・群集を選定する。 ○該当する種・群集としてはこれらの環境要素や環境条件に生息が強く規定される種・群集があげられる。

◆上位性◆

ツキノワグマ、ホンドキツネ、ホンドオコジョ、イヌワシ、クマタカは、ほかの小動物を捕食する、生態系において栄養段階の上位に位置する動物です。河川においてはイワナ類やアマゴがこれに該当します。これらの種が生息するためには、餌の量などの一定条件が満たされる広い範囲を必要とするため、生態系の攪乱や環境変化などの影響を受けやすい種と言えます。

◆典型性◆

ヒメネズミ、ニホンジカといった大型動物の餌資源となる種や採食により植生に強い影響を及ぼす種、ハイマツ帯、高山植物群落（お花畑*）、常緑針葉樹林帯（亜高山帯）、落葉広葉樹林帯といった広範囲に分布する植物群集は、南アルプスの生態系の形成に関わる重要な種です。

◆特殊性◆

南アルプスには、南アルプスの特殊な環境に依存して生息・生育している種、特異な分布域を有する種、特異な生活史を持つ種及び群集が存在します。

ひょうがいそんしゅ
氷河遺存種*のライチョウをはじめ、アカイシサンショウウオ、テカリダケフキバツタ、ミヤマシロチョウ、クモマベニヒカゲ、クモマツマキチョウは南アルプスを特徴づける種です。

どうけつ はいこう じゅうどう
コウモリ類は、洞穴、廃坑、樹洞などの特定の環境をねぐらとしています。一部の種は、原生林に近い林や天然林などを餌場とするため、生息が可能な環境が限定されています。

南アルプスが世界の分布の南限であるハイマツや、ムカゴトラノオ、タカネマンテマ、ミヤマハナシノブなどの氷河遺存種*、ムカゴユキノシタ、タカネマンテマなどの国内では南アルプスにのみ分布する種など、学術的に重要で希少な植物が多く存在しています。



大井川上流の清らかな流れ

表6 構成要素（貴重な動植物の生息・生育地：生態系）

区分	構成要素		エリア
上位性	哺乳類	●ツキノワグマ ●ホンドキツネ ●ホンドオコジョ	核心地域 緩衝地域 移行地域
	鳥類	●イヌワシ ●クマタカ	
	魚類	●イワナ類 ●アマゴ	
典型性	動物	●ヒメネズミ ●ニホンジカ	核心地域 緩衝地域 移行地域
	植物群集	●ハイマツ帯 ●高山植物群落（お花畑*） ●常緑針葉樹林帯（亜高山帯） ：シラビソ林、コメツガ・ウラジロモミ林、ダケカンバ林 ●落葉広葉樹林帯：ブナ林、ツガ・ウラジロモミ林	
特殊性	哺乳類	●コウモリ類 ●カワネズミ ●アズミタガリネズミ	核心地域 緩衝地域 移行地域
	鳥類	●ライチョウ	核心地域 緩衝地域 移行地域
	両生類	●アカイサンショウウオ	
	昆虫	●テカリダケフキバッタ	
	昆虫	●ミヤマシロチョウ ●クモマベニヒカゲ ●クモマツマキチョウ ●オオイチモンジ ●タカネヒナバッタ ●カラフトホソコバネカミキリ	
	植物	●ハイマツ ●ムカゴトラノオ ●タカネマンテマ ●ムカゴユキノシタ ●アカイシリンドウ ●サンプクリンドウ ●ミヤマハナシノブ	核心地域 緩衝地域

上位性



ツキノワグマ



ホンドキツネ



ホンドオコジョ



イヌワシ



クマタカ

典型性



ヒメネズミ



ニホンジカ



ハイマツ帯



高山植物群落(お花畑*)



シラビソ林



落葉広葉樹林



ヒメホオヒゲコウモリ



カワネズミ



アズミトガリネズミ



ライチョウ



アカイシサンショウウオ



テカリダケフキバツタ



ミヤマシロチョウ



クモマツマキチョウ



オオイチモンジ



ムカゴトラノオ



タカネマンテマ



ムカゴユキノシタ



サンプクリンドウ

写真：ホンドオコジョ、ニホンジカ、ハイマツ帯、落葉広葉樹林、テカリダケフキバツタ、高山植物群落（お花畑*）；『南アルプス学術総論』

写真：ツキノワグマ、ホンドキツネ、イヌワシ、クマタカ、ヒメネズミ、ヒメホオヒゲコウモリ、カワネズミ、アズミトガリネズミ、アカイシサンショウウオ、ミヤマシロチョウ、クモマツマキチョウ八ヶ岳・南アルプス亜種、オオイチモンジ；NPO 法人静岡県自然史博物館ネットワーク

ライチョウ；狩野謙一

シラビソ林、ムカゴトラノオ、タカネマンテマ、ムカゴユキノシタ、サンプクリンドウ；増澤武弘

③貴重な動植物

①で述べた多様な生態系には、元々の個体数が少ない種や、様々な要因によりその個体数を著しく減少させている希少種に分類される動植物が生息・生育しています。希少種は、環境省や静岡県県のレッドリスト（RL）に選定されており、特に減少の著しい種や愛好家による採取の危険性のある種については法律や県条例により採取が厳しく規制されています。

◆植物◆

南アルプスの植物相は多様性に富んでいますが、特筆すべきものは、亜高山帯から高山帯にかけての厳しい環境の中で、多様な地形地質に適応した植物が生育していることです。

特にムカゴユキノシタ、ムカゴトラノオ、アカイシリンドウ、サンプクリンドウ等の南アルプス固有種や、ハイマツ、タカネマンテマといった氷河遺存種*などの分布限界種*は、生育可能な場所が限られており、地域個体群の絶滅が種の絶滅につながるため、種の多様性や種の保存上重要な種です。

これらの種の中には環境省や静岡県 RL（レッドリスト）の選定種、種の保存法・県条例の指定種が多く存在します。

表 7 構成要素（貴重な動植物の生息・生育地：植物）

区分	構成要素	エリア
南アルプス固有種	●ムカゴユキノシタ ●ムカゴトラノオ ●アカイシリンドウ ●サンプクリンドウ 等	核心地域
分布限界種*	●ハイマツ ●タカネマンテマ ●ミヤマハナシノブ 等	

◆動物◆

猛禽類

南アルプスには、イヌワシ、クマタカといった希少な大型猛禽類が、生態系の上位に位置する種として存在します。イヌワシは開けた場所を、クマタカは深い森林地帯を狩場としており、狩場による棲み分けをしています。異なる生息環境を要求する2種の存在は、南アルプスの自然環境の多様性を表しています。

哺乳類

森林、特にミズナラなどの落葉広葉樹林を中心に生息するツキノワグマ、深い谷が形成する渓流域に生息し、水生昆虫や魚類を餌とするカワネズミや、大きな石が堆積したガレ場を好み、ネズミ類や鳥類を餌とするホンドオコジョ、人里から高山帯まで広く生息するホンドキツネなど、上位性種が数多く生息しています。

分布限界種*

赤石山脈の名を冠するアカイシサンショウウオを始めとした南アルプス固有種や、ホンドオコジョ、ライチョウのように南アルプスを分布域の南限とする分布限界種*の存在は、南アルプス特有の自然の重要性を表しています。

コウモリ類

南アルプスでは、非常に多くの種が確認されています。洞穴や廃坑をねぐらとする種、樹洞をねぐらとする種、原生林に近い林や天然林を好む種など、多種多様なコウモリ類が生息していることは、南アルプスの多様な環境を表していると言えます。

昆虫類（多様なカミキリムシの生息）

「南アルプス奥大井地域学術調査団報告書(静岡県 昭和50年)」によると、221種のカミキリムシが記録されており、その他の調査記録を加えると278種にも達します。これは静岡県の323種の約86%、日本全体の約700種のうちの約40%に達し、南アルプスは非常にカミキリムシの豊富な地域であると言えます。

カミキリムシは、森林依存性が強く、後翅が退化し飛べない種や風の吹き上げによって飛翔する種、花、葉、朽木や生木など餌が異なる種など、種によってそれぞれ異なる生態を持っています。多様なカミキリムシが生息するためには、森林に小規模な伐採など適度に人の手が入り、明るく開けた場所に多くの草花が生育している多様な環境があることが理想的です。

表8 構成要素（貴重な動植物の生息・生育地：動物）

区分	構成要素	エリア
生態系の上位種	● イヌワシ ● クマタカ ● ツキノワグマ ● ホンドオコジョ ● ホンドキツネ ● カワネズミ 等	核心地域 緩衝地域 移行地域
南アルプス固有種	● アカイシサンショウウオ ● アカイシコバネブキバツタ ● テカリダケフキバツタ ● タカネキマダラセセリ ● キタダケヨトウ 等	
分布限界種*	● ライチョウ ● ホンドオコジョ ● タカネヒナバツタ ● カラフトホソコバネカミキリ ● ミヤマシロチョウ ● クモマツマキチョウ ● オオイチモンジ ● クモマベコヒカゲ 等	

▲▲ コラム 南アルプスは国内有数のコウモリの生息地 ▲▲

日本の本州に生息する約 20 種類のコウモリのうち、今までに 15 種類が南アルプス及びその周辺で確認されています。コウモリは森林や洞窟をすみかとしており、南アルプスにはそういった環境が多く残されています。南アルプスはコウモリの多様性が高く、日本有数の生息地といえます。

特にクビワコウモリは、集団繁殖地が長野県以外では南アルプスのみで確認されている貴重な種になります。

木々の伐採などの開発行為により、コウモリの生息地が減少しており、貴重な種の保護のためにも、継続的な調査と原生林の保護を続けていく必要があります。



写真提供：NPO 法人静岡県自然史博物館ネットワーク

3) 伝統的な文化や産業が守る里地里山の自然

◆焼畑農業◆

井川地域で古くから盛んに行われていた焼畑農業は、火入れをしたハタケ（焼畑）で3～4年間作物を栽培した後、ヤブ（藪）に戻し、地力が回復するまで20～30年程待ってから、またハタケにする循環的な農業でした。人間活動によって様々な段階の自然環境がモザイク状に形成され、多様な自然環境に多様な生物が生息・生育していました。

しかし、林業の発達やダム工事によって現金収入が得られるようになると、次第に焼畑農業は行われなくなりました。田代諏訪神社の祭礼（ヤマメ祭り）に用いるアワ（粟）だけが焼畑農業で作られてきました。

近年、伝統的な焼畑農業の技術と心を継承しようと、地域の有志によって、焼畑の文化を伝える取組が進められ、焼畑農業で栽培されていたヒエ（稗）、モチアワ（糯粟）、ソバ（蕎麦）等の雑穀が在来作物として栽培されています。

また、大井川上流には、焼畑の出作り生活に利用されていたイゴヤ（居小屋）*が点在しており、かつての山村文化を象徴する景観が残されています。



火入れ



コウボウキビ



収穫

◆林業◆

南アルプスの木材は良質材とされ、江戸時代から駿府城や江戸城の御用木等に使われてきました。

昔、材木の輸送は、鉄砲堰を川に造成し、何ヶ月もかけて流して運ぶ「川狩り」を行っていましたが、1965（昭和40）年に二軒小屋の上流から山梨県側の西山温泉まで運ぶロープウェイ「白剥索道」が完成してからは、伐採した木材を直接市場に輸送することができるようになりました（現在稼働していません）。そしてこの頃から、皆伐主体の林業から、択伐方式によって天然更新を試みる自然環境に配慮した林業が行われるようになりました。しかし、1964（昭和39）年の丸太・製材品・合単板などの輸入自由化、円高による外材の相対的な価格の低下、プラスチックなどの木材代替材の開発などで国産材価格は下落し、林業は低迷するようになりました。

現在は、木材生産だけでなく、国土の保全をはじめ、水源のかん養、自然環境の保全、二酸化炭素の吸収機能、保健休養の場の提供といった多面的機能をもつ森林への社会的なニーズが高まっており、森林を保全する取組が行われています。

◆漁業◆

漁業の対象は、主にアマゴ、イワナです。前述のヤマメ祭りの祭礼に用いるヤマメ（学術的にはアマゴに属する）は、地元の人々に神聖な場所とされる「明神谷」で採られます。この谷は周年禁漁となっていますが、祭りの時だけ捕獲が許されており、地域文化が貴重な資源を守ることにつながっています。



アマゴ

表9 構成要素（伝統的文化や産業が守る里地里山の自然）

区分	構成要素	エリア
農業	●焼畑農業とイゴヤ（居小屋）* ●在来作物 …ヒエ（稗）、モチアワ（糯粟）、ダレキビ（ホンキビとも呼ぶ）、ホモロコシ（高黍）、コウボウキビ（弘法黍）、ソバ（蕎麦）等	移行地域
林業	●良質で広大な人工林と天然林	
漁業	●アマゴ、イワナ	



焼畑農業による在来作物栽培とエコツーリズムの融合

(2) 学術的研究支援の機能

1) 自然を守り、文化を継承するための教育

◆環境学習・啓発活動◆

本市は、行政と民間の協働により、自然を守り文化を継承するための教育を推進しています。2013（平成 25）年から市内の高校生を対象とした高山植物保護セミナーを開催し、南アルプスで起こりうる自然環境の変化を学ぶとともに、防鹿柵の設置作業等の体験を通じた環境保護意識の向上を目指した事業を実施しています。



高山植物保護セミナーの様子

例年 10 月下旬ごろ親子を対象に、南アルプスでのミズナラの植樹体験や、拾ったどんぐりの種まきといった活動を通して、豊かな自然環境と触れ合いながら南アルプスの環境学習を行う南アルプスの森づくりツアーを実施しています。



南アルプスの森づくりツアーの様子

また、大井川流域の森林を所有する特種東海製紙株式会社は、自社の環境憲章を定め、環境保護と企業発展の両立に努めています。その中でグループ会社の株式会社特種東海フォレストは、親会社が所有する井川社有林の多目的利用を図るため、樫島ロッジ、稜線の登山小屋、南アルプス白簾史朗写真館等の運営、自然とふれあうためのイベントの開催や情報発信、入山者のマナー意識を高める啓発活動など南アルプスの適切な保全と活用に向けた活動に取り組んでいます。

◆人材育成◆

本市では、環境教育を行う教育者を育てるため、市民生きもの調査員養成講座を修了した市民を対象に、南アルプスユネスコエコパークエリア内での植生調査や底生動物調査などを行う、南アルプスユネスコエコパーク市民生きもの調査ツアーを 2023（令和 5）年から実施しています。



南アルプスユネスコエコパーク市民生きもの調査ツアーの様子

表 10 構成要素（自然を守り文化を継承するための教育）

区分	構成要素	エリア
環境学習 ・啓発活動	● 高山植物保護セミナー	核心地域 緩衝地域 移行地域
	● 南アルプスの森づくりツアー	移行地域
	● 企業の取組 ・・・イベント、情報発信、森林体験・林業体験	移行地域
人材育成	● 南アルプスユネスコエコパーク市民生きもの調査ツアー	移行地域

2) 自然を守り、文化を継承するための調査研究、保全・保存活動の場

◆調査研究◆

本市では、南アルプスの森林植生や希少な動植物、ライチョウや高山植物の現状把握のための現地調査等に取り組んでおり、南アルプスの学術的知見が集約されています。これにより、保護が必要な種やその手法が検討されています。

また、井川地域の豊かな自然と歴史文化を象徴する伝統行事や信仰、それらの背景となる雑穀文化、地域固有の在来作物、伝統工芸等の生活文化を将来に継承し、保存していくため、考古、歴史、民俗資料の調査研究を行っています。



中野観音堂の千手観音像



在来作物（おらんど）

◆保全・保存活動◆

本市では、ニホンジカによる高山植物の食害対策として、前述の高山植物保護セミナーをはじめ、防鹿柵の設置等の活動を行っています。静岡県では、2002（平成14）年に「南アルプス高山植物保護ボランティアネットワーク」を設立し、ボランティアによる高山植物の保全活動（高山植物の分布調査、ニホンジカの食害調査）や啓発活動（啓発看板の設置、啓発パンフレットや水溶性ティッシュの配布、講演会開催）等を行っています。

また、井川地域の伝統文化を保存継承するため、地域住民や関係団体との協働による啓発活動・担い手育成に取り組んでいます。



ボランティア活動（左：茶臼岳における防鹿柵設置 右：塩見岳におけるヤシマット敷設）

写真：南アルプス高山植物保護ボランティアネットワーク



高山植物保護セミナー（千枚小屋周辺における防鹿柵設置）

表 11 構成要素（自然を守り、文化を継承するための調査研究、保全活動の場）

区分	構成要素	エリア
調査研究の場	<自然環境> ●ライチョウの保全対策に係る調査研究 ●動植物の生態系・生物多様性調査 ●筑波大学農林技術センター 井川演習林 等 <歴史文化等> ●雑穀や在来作物と、それにまつわる生活文化に関する聞き取り調査、記録 ●生業、社会生活、信仰や伝統行事に関する歴史・民俗調査	核心地域 緩衝地域 移行地域
保全活動の場	<自然環境> ●高山植物の保護活動 <歴史文化等> ●雑穀栽培、伝統食、伝統工芸等の担い手育成 ●在来作物を活用した食品開発 ●伝統行事実施に対する支援 ●その他、考古資料、歴史資料、民俗資料の保存	核心地域 緩衝地域 移行地域

(3) 経済と社会の発展の機能

1) 自然との共生により育まれた地域資源

◆歴史◆

わんだばら 割田原遺跡

田代地区の割田原遺跡では、縄文時代の土器や住居跡が発見されており、今から 5,000～4,000 年前には人々が生活していたことが分かっています。

集落の成立（山梨県、長野県とのつながり）

井川地域は本市葵区の最北の地区で、南アルプスへの玄関口となる農山村地区です。大井川を挟んで「田代」^{たしろ}「小河内」^{こごうち}という集落があり、それぞれに特徴があります。

田代地区には、先祖が長野側から山を越えてきたという伝承があります。信州側から南アルプスの山々を越えてきたヤモード（山人）が、井川の村を山の奥から順に開発し、焼畑農業を営んできたと考えられます。

一方、小河内地区には、山梨側から来た武田氏の落人が住み着いた、あるいは笹山金山の人夫が山を下りて村を作ったという伝承があります。焼畑よりも木材加工や金採掘、木材運搬といった労働により生活してきたと考えられます。

川を挟んで向かい合う 2 つの集落ですが、そこに住む人々の来歴は田代が長野側、小河内が山梨側と異なり、生業の違いも見られます。

金山跡

戦国時代、安倍川と大井川の上流から大量に採掘された黄金が、駿河の支配者である今川氏の権力を支えていました。井川周辺には井川、笹山、金沢、捻切（ねじきり）の 4 つの鉱山があり、明治から戦前まで金の採掘が行われていました。最も大きな金沢鉱山は、1937～1943（昭和 12～18）年の間頃、鉱夫約 200 人が働き、学校もあったということです。金の含有量が極めて高品質で、「ねじきり」の名称は金の大塊をねじ切って採取したことから付けられたと言われていますが、現在は閉山しています。

お茶壺屋敷跡

徳川家康は、井川大日峠に茶を保管するための蔵を建てさせました。夏の間、冷涼な高地で保管された茶は、秋に駿府城に運ばれ、家康本人や側室などが使用しました。茶の生産管理の特権を握っていたのは、「井川の殿様」と呼ばれる海野氏です。

明治に入り、茶は生糸と並び日本の代表的な輸出商品となりますが、1906（明治 39）年、井川出身の海野孝三郎らの尽力により、清水港から茶が直輸出できるようになると、静岡市内は茶の集積地として急速に拡大し、清水港は日本一の茶の輸出港の役割を担うようになりました。



お茶壺屋敷跡

大日古道

大日古道は上下約 12km、幅約 60cm から 90cm 程度の細い山道で、約 100m ごとに 40cm 程度の観音様がおり、大日古道に沿って 66 体が通行人の安全と無事を祈って地主や有力者が元禄年間に寄進したと伝えられています。樹林の中を通る山道からは、重い荷を担いで行き来した井川の人々の生活の歴史情緒が感じられます。



観音跡

中野観音堂、大日院

中野観音堂は、平安時代中期の作とされる十一面千手観音立像など計 5 体の仏像が安置されている御堂です。十一面観音像は、毎年、正月三が日を除く、1 月 6 日に最も近い日曜日のみ拝観できます。観音堂の祭りは、1 月 6 日と 2 月 7 日の二晩行われ、一晩中御堂で過ごしたことから「おこも籠り」と呼ばれます。参詣者には、里芋に味噌を付けた芋田楽が振る舞われます。現在は 6 日の晩に御開帳が行われますが、本来は 1 月 7 日の早朝、朝日が差し込むわずかな間だけ御開帳が許されたそうです。



中野観音堂

中野観音堂のすぐ近くにある大日院には、かつて大日古道沿いに祀られていた石仏や大日如来が奉られています。昔は幕府直轄地であったため、駿府城改築の用材はここで伐採されて駿府に運ばれました。

曹洞宗如仲派龍泉院

曹洞宗如仲派龍泉院は、山中まれに見る格式の高い寺院で、末寺が 9 つもありました。裏手には龍泉院の開基で、徳川家康に仕えて数々の武勲をあげた安部大蔵の墓があります。大般若経 600 巻や徳川家の茶壺などを所蔵しています。



龍泉院

日本山岳会創設の礎

南アルプス南部の近代登山は外国人によって始められ、中でも日本近代登山の祖と言われるウォルター・ウェストンは、1892（明治 25）年、南アルプスの赤石岳に登り、その登山活動と日本研究について「日本アルプス―登山と探検」をロンドンで刊行し、この本が世界に日本アルプスの名を広めました。また、この本が日本人登山家との交流のきっかけとなり、1905（明治 38）年に日本山岳会が創設されました。

井川山岳会の創設

井川山岳会は、資料から1932（昭和7）年に「井川村山岳会」として設立されたと考えられますが、設立後の活動は明らかになっていません。戦後の復興に伴い、苦しかった人々の生活にも余裕が生まれ、登山をする人が増えてくると、1950（昭和25）年、南アルプス国立公園指定の運動が始まり、またその後の国体の誘致活動によって、国立公園指定の動きはさらに活発化しました。そうして1957（昭和32）年に開催された国体では、南アルプスで山岳部登山競技が開催され、井川の知名度が上がり、南アルプスを訪れる登山者がさらに急増しました。このため1959（昭和34）年に現在の「井川山岳会」が結成されました。井川山岳会は、交通の整備、登山道・宿泊施設等の整備、インストラクターの育成、気象観測、登山者の指導、山岳救助隊の創設等を行い、南アルプス国立公園の指定に大きく貢献しました。現在も夏山登山者への指導等を行っています。

◆伝統行事◆

田代のヤマメ祭り

田代諏訪神社では「ヤマメ祭り」と呼ばれる例大祭が行われます。焼畑で栽培するアワ（粟）と、明神谷という神聖な谷で釣ってくるヤマメ（学術的にはアマゴと呼ぶ）で、特殊な神饌「ヤマメズシ」が作られ奉納されます。2005（平成17）年11月に静岡県の指定無形民俗文化財に指定されています。



ヤマメ祭りの様子

井川神楽

静岡県中部地方に広く分布する同系統の神楽の一つである「井川神楽」が、諏訪神社や井川神社の祭りにおいて奉納されます。神楽は数年に一度、井川の神楽伝承者が集まり、夜通し奉納される大神楽が行われ、多くの人で賑わいます。



井川神社の祭りにて奉納される神楽

ヒヨンドリ

小河内では、火伏せ（火による災害を防ぐ）のための行事であるヒヨンドリが元旦に行われます。大井川、天竜川流域を中心に様々な形で伝承されていますが、本市では小河内にだけ残されています。

また、ヒヨンドリには、「昔、小河内に住み着いた伊勢ソーホーなる人物が、村人たちの求めに応じて精巧な曲物作りの技術を教え、それとともにヒヨンドリを伝えた」という伝説があります。山から山へと遊行する民間宗教者が、様々な技術を携えて、各地に定住していったという歴史的背景をうかがわせる伝承です。



ヒヨンドリ

◆信仰◆

田代は、明治初年までヤマイヌ（ニホンオオカミ）の防除のため、柵に囲まれていたと伝えられています。ヤマイヌは人々にとって恐るべき存在でしたが、一方では焼畑を行う上で作物の害獣となるニホンジカやイノシシなどの天敵でもありました。田代や小河内では、傷を負ったヤマイヌを助けたところ、イノシシによる焼畑への害が無くなった、シカの肉を持ってきてくれたなどの伝承が伝えられていることから、適切な関係を保とうとしていたことがわかります。また、田代の大井神社では、ヤマイヌの図柄の神札を発行しており、疫病よけ、猪鹿よけとして用いられたという伝承があります。



ヤマイヌの御札と木像
出典：『南アルプス学概論』

◆伝説◆

井川地域には「てしゃまんく」「とくせいばあ」^{ちからじろうえもん}「力 次郎衛門」といった力持ちの伝説が残っています。木材を切り出して里へと下ろしたり、大きな荷物を駿府へ運んだり、力が必要とされていて、力持ちに対する憧れがあったとも考えられます。

◆食文化◆

井川地域には、焼畑農業で収穫したアワ（粟）やヒエ（稗）、キビ（黍）を使った伝統食が残されています。ヒエの粉を使ったヘーダンス（稗団子）、ニギリゴナ（握り粉）、モチアワと餅米を使ったカミノモチ（神の餅）、ダレキビと餅米を使ったキビボッター（黍ぼた餅）、コウボウキビを使った焼餅、コウボウガキなどの様々な雑穀料理があります。近年、雑穀はたんぱく質、カルシウム、マグネシウム、ビタミン類を豊富に含んでおり、これらの栄養をバランス良く摂取する食材として見直されています。

また、井川地域に受け継がれている山の恵みとして、ニホンミツバチの養蜂によるハチミツがあります。春、野生のニホンミツバチを巣箱に定着させ、秋にハチミツを取ります。ハチミツは、主に薬として使われていました。肺炎、打ち身、眼病、痔、便秘、下痢など多くの薬効が伝えられています。昔は奥山に雑木が多く、ニホンミツバチが多く生息していました。今も、井川の集落内にはいくつもの巣箱が置かれ、採れたハチミツは健康食として愛用されています。



◆景観◆

井川地域からは、南アルプスの多様な自然景観を楽しむことができ、登山やハイキング、井川湖の渡船によってより間近に、迫力のある南アルプスを楽しむことができます。ほとんどの南アルプスの山頂からは富士山を楽しむこともできます。

本市では、南アルプスをより身近に感じてもらうため、赤石岳を望む樺島ロッジ付近に位置する牛首峠や、井川地域への玄関口となる富士見峠に設置したライブカメラの映像をホームページで公開しています。

また、大井川は、流域特有の地層・地形から、穿入蛇行*をはじめとした特有の溪流景観を生み出しています。

◆イベント◆

美しい紅葉の景観を愛でながら行われる井川ダム祭りや井川マウンテンマラソンなどは、地域の伝統あるイベントで、地域住民が一丸となり、来訪者を迎え入れています。

また、徳川家康への献上茶を保管したという故事にちなみ、井川大日峠にお茶蔵が建てられ、「蔵出しの儀」が駿府本山お茶まつり委員会の主催によって開催されています。

表 12 構成要素（自然との共生により育まれた地域資源）

区分	構成要素	エリア
歴史	●割田原遺跡 ●集落の成立ち（長野県、山梨県とのつながり） ●金山跡 ●お茶壺屋敷跡 ●大日古道 ●中野観音堂、大日院 ●曹洞宗如仲派龍泉院 ●大井神社 ●諏訪神社 ●井川神社 ●日本山岳会、井川山岳会	移行地域
伝統行事	●ヤマメ祭り ●井川神楽 ●ヒヨンドリ ●各地区のお堂のお籠り	移行地域
信仰	●ヤマイヌ信仰	移行地域
伝説	●てしゃまんく ●とくせいばあ ●力次郎衛門	移行地域
食文化	●雑穀を使った伝統食 …ヘーダンス（稗団子）、ニギリゴナ（握り粉）、カミノモチ（神の餅）、キビボッター（黍ぼた餅）、焼餅、コウボウガキ ●養蜂（ハチミツ）	移行地域
景観	●南アルプスと溪流 見られる場所：南アルプス赤石温泉白樺荘、山伏、井川大橋、富士見峠、大日峠、牛首峠、接岨峡、新井川溪谷 など	移行地域
イベント	●南アルプス山開き（7月16日） ●井川大仏例祭（10月） ●井川ダム祭り（11月3日） ●井川マウンテンマラソン（10～11月） ●雪まつり（2月）	移行地域

2) 自然と共生する地域の産業

◆農業◆

冷涼な気候を活かした農産物

井川地域は、茶やシイタケ、ワサビの栽培が古くから行われ、冷涼な気候によって穏やかに育つことから、濃厚な味わいを醸し出すところに特徴があります。井川茶は、川霧に包まれる山の斜面を利用して栽培されるため霧の香りがするとされ、まろやかな渋味と甘みの特徴です。

夏になると井川地域ではトウモロコシや高原野菜の栽培が盛んに行われます。井川地域で育つトウモロコシやキャベツ、大根、白菜等の高原野菜は昼夜の温度差が大きいいため甘みが強いところに特徴があります。

在来作物

近年、昔から井川地域で守り受け継がれてきた「在来」と呼ばれる伝統作物が注目されています。品種改良された現在の作物にはない風味を持ち、濃厚な味が楽しめます。



在来作物

出典：『葵区在来作物ガイドマップ』

◆特産品◆

南アルプスの標高 1,200 メートルの冷涼な気候や清らかな湧水という自然の恵みを活かし、ここを社有林とする十山株式会社はこの地に井川蒸溜所をおき、ウィスキーを製造しています。そのウィスキーを熟成させるための樽は、南アルプスの森で育ったミズナラの倒木を加工して利用しているなど、「南アルプスとの共生」を大切にしています。

また、井川地域の新たなお土産として開発された在来作物を使ったクッキーは、井川を訪れる観光客に人気となっています。

◆伝統工芸品◆

井川メンパは、小河内で盛んに行われていた砂金採りなどに使用する曲物づくりの文化と、漆塗の技術とが融合して編み出された井川の伝統工芸品で、今も 48 工程とされる細かい作業を受け継ぐ職人の手によって一つ一つ大事に作られ、その伝統が継承されています。

表 13 構成要素（自然と共生する地域の産業）

区分	構成要素	エリア
農業	●茶、シイタケ、ワサビ ●キャベツ、大根、白菜等の高原野菜、トウモロコシ ●在来作物 <在来野菜> 井川おらんど（じゃがいも）、井川在来蕎麦、井川黒がら（里芋）、井川なす、井川にら、井川大蒜（にんにく）、地這いきゅうり、小河内の地ねぎ、赤石豆、井川からし菜、井川の地かぶ、かきんのかぶ、緑小豆、井川の小柿、在来らっきょう など 60 種以上 <雑穀> ヒエ、モチアワ、サカアワ、ダレキビ、ホモロコシ、コウボウキビ など 10 種	移行地域
特産品	●十山株式会社のウィスキー ●在来作物のクッキー ●てしゃまんく最中	移行地域
伝統工芸品	●井川メンパ	移行地域



井川メンパ

写真：『井川メンパの制作風景；山に生きる人々の知恵一大井川最上流部の民俗文化一』

3) 自然を活かした地域振興

①散策コース

井川地域のスポットを周回できるハイキングコースが整備されています。井川駅から廃線小路を通り、井川湖畔を中心に吊り橋、神社仏閣等の名所を巡ることができます。ビジターセンターまでハイキングしたあとは、井川湖渡船を使って、井川ダム渡船場まで戻る周回可能なコースもあります。

周遊性が高く、効率的に名所を回ることができる地域振興の資源の一つとなっています。



図 16 井川地域おすすめスポット巡り

②登山の拠点

静岡県側の山小屋は 14 か所整備されており、地域振興の拠点の一つとなっています。中でも、樫島ロッジは 80 人の収容が可能で、施設も充実しており、また様々な登山ルートにアクセスしやすい場所に位置しています。ヘリコプターが着陸できる広いスペースがあり、夏期中は山岳救助隊の待機所として、登山指導、地元住民で組織される救助体制、山小屋相互の連絡体制による遭難防止対策を図っています。樫島ロッジに隣接する「南アルプス自然ふれあいセンター」は、登山者に対する情報発信施設です。

山小屋の利用期間は、概ね管理人が駐在する 7 月中旬から 9 月下旬となっていますが、それ以外は冬期避難小屋として一部が解放されています。



樫島ロッジ



南アルプス自然ふれあいセンター

③釣り場

2013（平成25）年から、株式会社特種東海フォレストが管理する釣り場「大井川源流特設釣り場」が、二軒小屋〜^{とくさえんてい}木賊堰提間に開設されました。溪流釣りを楽しむことができる拠点となっています。

④鉄道

島田市や川根本町と井川地域を結ぶ大井川鐵道は、SLの動態保存と日本唯一のアプト式鉄道で全国に知られています。大井川に沿って、春の桜、初夏の茶畑そして秋の紅葉等、車窓からの豊かな景色を眺めながら、のんびりとしたローカル線の旅が楽しめます。鉄道駅は、観光客の来訪の拠点となっています。

⑤湖

井川湖は、井川ダム建設後、湖底に沈んだ道路の補償として井川湖渡船事業が始まり、その後観光客等の増加にともなって、遊覧を兼ねた渡船の運航が現在も継続して行われています。渡船から望む紅葉の景色が美しく、多くの観光客が訪れ、井川観光の拠点となっています。井川湖に掛かる大吊橋（井川大橋）は普通車で渡ることができるのが特徴で、スリル満点です。

⑥宿泊施設

南アルプスユネスコエコパークは、奥深い山岳地帯であるため、その魅力を満喫するためには、宿泊をとまなう滞在型の観光が適しています。このため、宿泊施設が地域振興の拠点となります。

南アルプス赤石温泉白樺荘は、市営の温泉宿泊施設です。温泉の泉質は単純硫黄泉で、独特のぬるぬるしたお湯が特徴です。白樺荘には大浴場や露天風呂を備えています。

南アルプス井川オートキャンプ場は、井川ダム最上流部の湖畔に位置します。テントサイトは41区画あり、炊飯室、水洗トイレ、温泉風呂、コインランドリー、コインシャワーもあり、快適にキャンプを楽しめます。

静岡県県民の森は、野外レクリエーション施設として山小屋風のロッジやログハウスが整備され、家族連れで利用することができます。井川・梅ヶ島地区にまたがる約1,000haの広大な敷地にはブナやウラジロモミの樹林が広がり、井川湖、南アルプス・富士山を望むことができます。

井川地域の旅館、民宿は、現在8軒が営業していますが、現在は観光客よりも公共工事の施工業者の宿泊が多く見られます。

また、樫島ロッジ、南アルプス自然ふれあいセンターは、登山及び山岳救助の拠点になっています。



南アルプス赤石温泉白樺荘



静岡県県民の森

⑦ガイドや情報発信の拠点

南アルプスユネスコエコパーク井川ビジターセンターは、井川地域の観光の拠点であり、井川の観光情報を得ることができます。その他、喫茶・お土産品コーナーがあります。

井川農林産物加工センター「アルプスの里」は、JA静岡市井川支店の主婦達が運営するお食事処で、季節ごとの井川の味を楽しむことができ、蕎麦打ち等の体験もできるほか、地域の観光情報も得ることができます。

また、旧井川小学校の廃校舎が「（仮称）南アルプスユネスコエコパークミュージアム」に改修され、令和7年度に開館予定です。開館後は、南アルプスや井川地域の自然や文化、歴史等が学べる情報発信の拠点となります。



南アルプスユネスコエコパーク
井川ビジターセンター



アルプスの里

表 14 構成要素（自然を活かした地域振興）

区分	構成要素	エリア
ハイキングコース	●井川湖畔・井川本村周遊コース等	移行地域
登山の拠点	●南アルプス自然ふれあいセンター ●山小屋（熊の平小屋、小河内岳避難小屋、高山裏避難小屋、荒川中岳避難小屋、千枚小屋、荒川小屋、赤石岳避難小屋、赤石小屋、百間洞山の家、聖平小屋、榎島ロッヂ、茶臼小屋、横窪沢小屋、ウソッコ沢小屋） ●南アルプス赤石温泉白樺荘	核心地域 緩衝地域 移行地域
鉄道	●大井川鐵道（SL、アプト式鉄道）	移行地域
湖	●井川湖 ●井川湖渡船 ●井川大橋 ●夢の吊り橋 ●中部電力井川展示館	移行地域
釣り場	●大井川源流特設釣り場 ●あまごの里	移行地域
宿泊の拠点	●南アルプス赤石温泉白樺荘 ●南アルプス井川オートキャンプ場 ●静岡県県民の森 ●井川地域の旅館、民宿 ●榎島ロッヂ	移行地域
ガイドや情報発信の拠点	●榎島ロッヂ ●南アルプス自然ふれあいセンター ●南アルプス赤石温泉白樺荘 ●南アルプスユネスコエコパーク井川ビジターセンター ●静岡県県民の森 ●井川農林産物加工センター「アルプスの里」 ●（仮称）南アルプスユネスコエコパークミュージアム	移行地域